

傍聴者 からの声



富武士 船木淳一さん

9月17日、平成22年町議会第3回定例会の初日、町政全般に渡る一般質問を傍聴する機会を得ることができました。この度の質問者は、男性議員は一人もなく、女性議員3名の質問でありました。

3議員の質問は、日常生活に密接に関連する事項ばかりで、町民の目線で行政に携わろうとする議員の姿勢に好感が持たれ、今後の議会活動に期待するものであります。

町民の関心度が高い医療問題で、医師欠員が続いている厚生病院の経営内容の指摘と、近年中に予定されている病院改築計画との整合性についての質問は特に関心を持って聞いておりました。

商工業の振興発展と商店の活性化を促す目的で始めたプレミアム付商品券の発行では、どの程度商工業者の活性化につながり、寄与しているのかの検討、課題提起や市街中心部で発生した異臭問題に関する排水溝対策に関する件、児童生徒の向学心を応援する奨学資金制度の今後の考え方とスポーツ振興のあり方等、更には、「森と湖のまち」と前面に打ち出して観光に力を入れていく現状から将来に向かっての取組む町の観光振興計画と来町する観光客に対する親切な「まちづくり」対策等々を町長、教育長の考え方に対する質疑には、女性ならではの目線と言葉による質問で、大変好感を覚えました。

再度傍聴する機会があるときは、ぜひ男性議員の地方自治行政問題の研鑽を積んだ内容の質問を期待しています。

「思想感」

脳死、家族の承諾で臓器移植提供、本人の意思表示がないことによる、家族が責任感と精神的重圧の中に短時間で判断された思ひは、言葉では言い表せないものがあったでしょう。

命と命引き継ぐ尊い人の行為に敬意をしますが、改正されたから尊い行為の風潮が先行し促された医療、知識人の評価に危惧もする。

提供するも善、しないも善行、評価で善悪されない社会のもとで脳死が臓器の固体的な、人の感情の重さとは何かを民に問い、どう理解していくのか意識改革し、社会的に前向きにとらえることを望みたい。

限られた社会環境で生活してきた凡人の自分、感情意識に理解していない今、まだまだできないだろうな。

あなたは、どう思いますか。

(小松正義)

請願・陳情は国、道、町政に住民の皆さんの意見や要望を反映させる一つの方法で、個人、団体を問わず誰でも提出することができます。

《 記 載 例 》

(本文)

に関する請願(陳情)

要旨

理由

平成 年 月 日

佐呂間町議会

議長 殿

佐呂間町字 町 番地

印

(表紙)

に関する

請 願 書

(陳 情 書)

紹介議員 印

陳情書の場合、紹介議員は不要です。